

## シンポジウム等の概要について(事後報告)

1 名称：ぼうさいこくたい 2018 公開シンポジウム「災害からあなたを守る科学技術との対話」

2 日本学術会議の主催者：科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会、および土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会

3 その他の主催団体等：

ぼうさいこくたい 2018 主催：防災推進国民大会 2018 実行委員会(内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)

4 開催日時：平成 30 年 10 月 13 日(土) 12 時 30 分～14 時 00 分

5 開催場所：東京ビッグサイト(東京国際展示場)701-702 会議室

6 開催趣旨：

科学技術が生み出す知見や情報をうまく使えば、市民の生命・財産を災害から守ることに役立てることができる。とりわけ近年の情報通信技術(ICT)の発達が目覚ましく、防災・減災に関する行政機関や市民団体と科学技術分野が、ICTを用いて「対話」することが可能となっている。ICT の最先端を拓く斯界の第一人者を迎え、行政・市民団体・学術分野の代表が熱く語り合う。

2015 年に仙台で開催された第 3 回国連防災世界会議での議論を受けて、2020 年までに各国のナショナルプラットフォーム(国家防災組織)や各地方組織の実施戦略を策定することが国際的に決められている。防災大国日本の英知を集め、我が国はもとより世界を守る道筋を明らかにしていかなければならない。災害から社会を守る未来の姿を行政・市民・学術分野が一緒に考える。

7 参加人数：

講演者等：7 名

その他の参加者：50 名

8 特記事項：

- ・ 学術、市民、行政の代表による講演に続き、喜連川優国立情報学研究所所長による基調講演が行われ、その後、「頻発する地震や津波、激甚水害などに対して、市民による自助・共助力を増強するために、科学技術分野は何をするべきか？」をテーマにしたパネルディスカッションを行った。本セッションの結論として、『頻発する地震、津波や水害等に対して、科学的知見を政策や人々の行動に反映して災害リスクを軽減する取り組みは今なお途上であり喫緊の課題である。科学技術分野は、情報通信技術(ICT)を駆使して産学官のデータを統合・共有することで、市民が行動に移せる情報とその発信の仕組みを創り出すとともに、市民・行政・産業と科学技術との対話を促進する必要がある。』というメッセージを取りまとめ、「ぼうさいこくたい 2018」のクロージングメッセージに組み込まれるに至った。